

## 「麵麴」「青樹」（第二次） 総目次と解題

和\* 田 博 文

## 要 旨

本稿は「第一次「青樹」総目次―付竹中郁書簡紹介」（奈良大学紀要「二一〇」）の続編である。従って本稿は、第一次「青樹」に続いて出た、「麵麴」「青樹」（第二次）の総目次で構成している。「麵麴」は一九三二年六月～三三年十二月に十冊、第二次「青樹」は三四年四月～三七年六月に十冊刊行された。詳しくは〈解題〉を書いたので、そちらを参照していただきたい。

## 〈解 題〉

第一次「青樹」が終刊したのは、一九三一年十二月である。「第一次「青樹」総目次―付竹中郁書簡紹介」（奈良大学紀要「二一〇」号、九三年三月）で述べたように、同誌は一九二五年一月に創刊され、七年間で三五冊を出した。創刊当時の詩の世界は、前衛芸術運動の最盛期にあたっている。前年には「GE・GJMGGJGAM・PRRR・GJMGEEM」「マツオ」「DAMDAM」「垂」などの雑誌が相次いで出され、二五年になるとその実験の成果を競いあうかのように、北川冬彦『三平規管喪失』、萩原恭次郎『死刑宣告』、尾形龜之助『色ガラスの街』といった詩集が刊行されていた。

京都美校・絵画専門学校の学生を中心に作られた第一次「青樹」は、当初は詩壇のなかでは目立たない、おとなしい詩誌だった。だがそれはやがて、「京都 同人」という枠組から越境していく。たとえば一九二八年には北川冬彦・竹中郁・外山卯三郎が顔を覗かせて、翌二九年には安西冬衛・上田敏雄・北園克衛が作品を発表している。寄稿者はむろん他にも多数いるが、この六人の名前は象徴的だろう。なぜなら前衛芸術から新詩精神（レスプリ・ヌーボー）へと、詩史は展開しつつあった。そして六人はいずれも、レスプリ・ヌーボーの中心になった、「詩と詩論」の創刊時からのメンバーだったのである。

一九三一年十二月はくしくも、第一次「青樹」の終刊の年月であり、「詩と詩論」の終刊の年月でもある。それは偶然の一致にすぎないが、この詩誌がどのような交通の只中で展開したかを示している。「詩と詩論」はその後「文学」と改題、三三年三月～三三年六月に六冊刊行された。これは時期的には第一次「青樹」同人の、その後の活動とほぼ重なっている。彼らは「麵麴」十冊を、三三年六月～三三年十二月に出したからである。続いて三四年四月～三七年六月に、第二次「青樹」十冊を出して、天野隆一を中核としたこの詩誌の活動は、いちおうの幕を降ろすことになる。

おのずから「麵麴」「青樹」（第二次）の性格は、都市モダニズム

の色彩を強くにじませていく。安西冬衛／安藤一郎／稲垣足穂／岩佐東一郎／岡崎清一郎／近藤東／阪本越郎／杉本駿彦／田中冬二／春山行夫／菱山修三／村野四郎／渡邊修三と、「麵麴」寄稿者の氏名を列挙していけば、「詩と詩論」の中心メンバーに、その後統世代を併せ、都市モダニズムを代表する詩人が、オンパレードであることが分かるだろう。少なくとも戦前の日本では、求心力をもつ商業詩誌は存在していない。時代水位を切り拓く作業は、有力な同人誌と、いくつかの月刊詩誌を、舞台として行なわれている。「麵麴」「青樹」は明らかにその一角を担っていた。

この詩誌のモダニティは、むしろ寄稿者によってだけ形成されたのではない。発行所が京都におかれていたため、京都在住の、あるいは以前に在学在住した詩人が、同誌の同人であった。だが彼らの作風は、時代のうねりにもまれ、先行詩人との交流を通して、変容しつつあった。たとえば第一次「青樹」二号（一九二五・三）に、天野隆一は「終電車」を発表しているが、この作品は次のように結ばれている。「私の降りる停車場は幽霊のやうに／何と爽快な影レールは秋波に震ふてゐるが／私の心は地上から伸び 青いふろしきにおほはれ／古雅なひろがりの街並みを忘れて／どんとんと昇天する電信棒と月ばかりだ」と。

まだ京都市立絵画専門学校（現在の京都市立芸術大学）の学生だった天野の、いかにも大正期らしい抒情詩である。天野が四半世紀後に書いた「青樹」について（「日本詩壇」一九五〇・三）の回想に従うなら、「朔太郎、屋星等の影響がみられ」る作風だといえよう。同時期の前衛芸術が試みていた、伝統破壊からは隔たっている。だが作品に同じ電車を織り込んでも、一九三〇年前後の作風はまったく違ってくる。

GO・STOP 都会の十字街頭に金属性の花が開く  
自動車・電車・ベル・パス・軽快なる会話  
ビルディングが今日はリボンをつけてゐる  
アスファルトに落ちた手袋に微風が流れる  
硝子戸がぐるりと一回転する 金貨の音  
金網の中に猿は紙幣をくる

天野隆一「街の花と猿」の前半部を引用した。第一次「青樹」二七号（一九三〇・二）に発表されたこの詩は、言葉のモニタージュによって成立している。「金属性」と「花」、「ビルディング」と「リボン」、「猿」と「紙幣」。日常性の中では遠く離れた言葉たちが暴力的に連結され、新しいイメージの生誕が意図されている。「青樹」についてで天野は、「詩と詩論」による詩人群が詩壇に革新の烽火を挙げその超現実派的詩風は全国の若い世代の詩人を捲握した。「青樹」もあきらかにその洗礼を受けたと云へよう」と回想している。シュールレアリスムであるかどうかはさておき、明らかにレスプリ・ヌーボの波に洗われて以降の、言語世界がここにはある。

第一次「青樹」後半からのモダニストたちの寄稿は、同人の作風の変容と、パラレルな関係にあった。この関係は基本的には変わることもなく、「麵麴」と第二次「青樹」に引き継がれていく。第二次「青樹」で目立つ特徴があるとすれば、それは翻訳が多くなっていることだろう。喜志邦三がクロスビーを、荒木二三がジョイスやエリオットやサスーンを、山中散生や山内義雄がエリユアルを、板倉納音がケストナーを、それぞれ訳しているのである。シュールレアリスムやノイエ・ザハリヒカイトの思潮は、エリユアルやケストナーの翻訳だけではなく、彼らの創作からも読み取ることができ

る。

都市モダニズムの時代の多くの詩誌のなかで、「青樹」「麵麴」「青樹」（第二次）全五冊は、どのような特徴を持っているのだろうか。京都で出ていたという地理的条件を別にすれば、文学と美術の交通がその一つに上げられる。むろん両ジャンルの交通それ自体が、他の詩誌で実現しなかったわけではない。たとえば前衛芸術誌なら、「GE・GJMGJGAM・PRRR・GJMGE」には、画家の玉村善之助が加わっていた。村山知義や柳瀬正夢らが結集した「マヴォ」の場合は、文字と図版の交通による作品が誌上を飾っていた。

だがこの詩誌の印象は、それらとはまったく異なっている。単に画家が参加したということではなく、また詩画の実験を試みたわけでもない。編集者の天野隆一は、天野大虹という号の画家である。彼の美的センスは、まず何より誌面構成に反映した。またコクトーやシャガール、デュフィやピカソ、ラポルドやレジュエの作品が、カットに使用された。さらに天野大虹や相澤等、伊谷賢蔵や河合健一、黒田重太郎や藤井義晴、福田豊四郎や向井潤吉らの図版が、色摺で掲載されていたりする。それらはときに、豪華な印象を読者に与えたとちがいない。

天野大虹が装幀した詩誌や詩集は、同時代に広く見られる。別の言い方をすればそれは、モダニストの作品を「青樹」「麵麴」に集結させる、一つの動機になっていただろう。ビジュアルランゲージがどのように、現代詩のムーブメントと連動したかは、まだ未開拓の研究領域である。天野隆一（大虹）の仕事の意味も、その文脈のなかで、いづれ光を当てられると思われる。

読者が「読む」のは作品だけではない。どのような広告が掲載されているかは、詩誌のイメージ作りに大きな役割を果す。その意味

で本稿では、広告が出た著者名・書名・誌名を号ごとに記載しておいた。広告というテキストから私たちは、様々な交通を読み取ることもできる。ここでは二例だけ取り上げておこう。

この詩集によつて失はれた愛すべき時間をとりもどしたばかりでなく、私の心は乾いてゐるが正しい亢奮が失はれてゐたわけになかったことを知り心の愉しさを覚えました。（坂口安吾氏）

笠野半爾「ひひらぎそよご」（青樹社）の広告が、「青樹」第二号（一九三四・六）に掲載されている。天野大虹装幀・亀井藤兵衛版画・木版十度手摺という、豪華版の散文詩集だが、広告の下部にさりげなく置かれている文章を引用した。謹呈に対する礼状とおぼしきこの一節は、坂口安吾の未確認書簡である。笠野半爾と坂口安吾との間に、どのような交流があったのかは定かでない。ただこの書簡は、安吾にとつての京都、安吾にとつての詩歌、という未見の可能性を私たちに示唆している。

礼状を広告に使ったのは、岡崎清一郎「火宅」（自家版）も同様である。「青樹」第三号（一九三四・九）掲載の広告で、萩原朔太郎の礼状を利用しているのである。（河出書房新社から九一年に出た、「新文芸叢本萩原朔太郎」の「礼状が広告に使われた」で、写真付きで紹介したので、そちらを参照していただきたい）。ここでも広告というテキストは、「詩と詩論」世代のモダニストにとつて、朔太郎が斥けるべき対象としてのみ存在していたわけではないことを、明瞭に語っているだろう。

誌上に散見される日録や、受贈誌の記録なども、詩人たちの交通を明らかにする、貴重な資料である。朔太郎ついでに、一つだけ訂正をしておく。「新潮日本文学アルバム15萩原朔太郎」（一九八四、

新潮社)は、相澤等詩集出版記念会の写真を掲載し、こんなキャプションを添えている。「相沢等詩集『雲の生誕』出版記念会(昭和9年12月、横浜のレストラン・エキスパレスにて)。「青樹」第四号(一九三五・二)には、同じ写真が掲載されているが、同誌によれば記念会が行われたのは十一月三日の夕方。また相澤の詩集は『雲の生誕』ではなく、『雲の生植』である。

青樹社刊行の単行本を最後にリストアップしておきたい。詩誌の出版と、詩集の出版は、連動していたはずだからである。「青樹」第五号(一九三五・七)に、天野隆一が青樹社発行詩集目録をまとめているので、それを転載させていただく。

- 天野隆一「青い旗」(一九二六)
- 佐近司「思慕哀吟」(一九二六)
- 岩井信實「死亡診断書」(一九二六)
- 天野隆一・相澤等・佐近司「公爵と港」(一九二八)
- 山村順「水兵と娘」(一九三〇)
- 俵青茅「雪女」(一九三〇)
- 笠野半爾「麵麴の雪」(一九三三)
- 天野隆一「紫外線」(一九三三)
- 彌永亥一郎「朱門」(一九三三)
- 荒木二三「マクベスの釜」(一九三三)
- 藤井義晴「枇杷」(一九三三)
- 俵青茅「夜虹」(一九三三)
- 笠野半爾「水の悲哀」(一九三三)
- 笠野半爾「終冬青」(一九三四)
- 杉本駿彦「EUROPE」(一九三四)
- 相澤等「雲の生植」(一九三四)
- 坂野草史「ブルシャ頌」(一九三五)

京都詩話会編『京都詩選』五冊(一九二八〜一九三三)なお私が所持している「麵麴」「青樹」の若干の号以外は、天野隆一氏宅に保管されていたものを、一九九〇年四月に三回にわたって調査し、全頁撮影させていただいた。氏の協力に対して、この場を借りて、深くお礼申し上げます。

〔凡 例〕

- ①総目次はタイトル・作者・頁数を記した。
- ②作者名は旧漢字を、そのほかは旧仮名・新漢字を、原則として用いている。
- ③ノンブルがない頁は前後から補足した。
- ④タイトルと作者がはっきりしている図版は目次に含めた。どちらかが不明な場合は末尾に注記している。
- ⑤発行所・住所・領価などは、変更がある場合などに限り、末尾に注記した。

「麵麴」総目次

第一期	昭和七年六月十五日発行		
待期		左近司	2 3
月光	わが詩兄喜志邦三氏に	笠野半爾	4 5
蠅手		俵青茅	6
海		俵青茅	6 7
断章		俵青茅	7
思慕		彌永亥一郎	8 9
青い花		彌永亥一郎	9 10



花束―友、笠野半爾、きみをかなしませるためにのみこの花束を摘みます。―

垣 彌永亥一郎 10  
断片 藤井芳 12  
断片 藤井芳 13  
出帆 藤井芳 13  
並木道 藤井芳 14  
空と鳩 天野隆一 15  
独楽と月 天野隆一 16  
空中散歩 山村順氏詩集 17  
春の星 福原清氏詩集 18  
「明日」 竹内勝太郎氏詩集 18  
京都詩選を読む 依青茅 18  
京都詩選評―一九三三年― 岩佐東一郎 19  
喫煙室 笠野半爾 19  
★奥付の頁に同人アドレス掲載。同人は、天野隆一・相澤等・藤井芳・笠野半爾・左近司・依青茅・彌永亥一郎。

★編輯は天野隆一。

★発行所は青樹社。京都市八坂通大和大路東入。編輯者の住所と同じ。

★領価205円。

★表紙の画はピカソ。中扉・二二頁・二二頁・二四頁にカット。

★三三頁に写真一葉。

★笠野半爾「麵麴の雪」、京都詩話会編「京都詩選一九三三年版」

「詩章」第九輯、「文芸汎論」の広告掲載。

第二号 昭和七年七月二五日発行

紫外線 天野隆一 2  
黒海 天野隆一 3  
彼・現実 山村順 4  
SONETTO 笠野半爾 6  
麵麴と花粉 笠野半爾 7  
孤独の記念 笠野半爾 8  
昼顔 藤井芳 9  
水族館 藤井芳 10  
夜明け 藤井芳 11  
鏡 藤井芳 11  
渠 藤井芳 12  
霧 藤井芳 12  
六月 左近司 13  
女ごころ 依青茅 14  
男ごころ 依青茅 14  
古びた帽子 依青茅 15  
びいどろ 依青茅 15  
霖雨 依青茅 16  
時劫 依青茅 16  
聖橋 彌永亥一郎 17

CORONA CORONA

白い字幕

笠野半爾

21

花信

藤井芳

22

細民將軍

左近司

22

夏・宣托

俵青茅

22  
23

京都詩集

天野隆一

23

★表紙の画はピカソ。中扉の画はシャガール。二十頁の画はデュッ  
イ。二四頁と二五頁にカット。

★二三頁に、笠野・俵・藤井・天野・彌永の写真一葉。『麵麴の雪』  
の広告頁に汽船の写真一葉。

★「詩章」八月号と、『麵麴の雪』の広告掲載。

第三号 昭和七年十一月一日発行

肖像

彌永亥一郎

2  
3

丘

彌永亥一郎

3  
4

黄昏

彌永亥一郎

5

秋の詩―夜

笠野半爾

6  
7

―月

笠野半爾

7

―風

笠野半爾

8  
9

―娥

笠野半爾

9  
10

栗色

山村順

11

青夜の衣裳

俵青茅

12

秋夜

俵青茅

13

小景

藤井芳

14

断章

藤井芳

14

智恵

藤井芳

15

日記

藤井芳

15

人生馬車

海

藤井芳

16

車輪

藤井芳

16

CORONA CORONA

天野隆一

17

『麵麴の雪』について

近藤東

18

麵麴の雪について

田中冬二

18  
19

所感

山村順

19

『麵麴の雪』捲髪の女

彌永亥一郎

19  
21

『交替の時』感想

藤井芳

21

詩集散見―「一匙の雲」竹中郁著

彌永亥一郎

21

―氷の道、古川賢一郎著

彌永亥一郎

21  
22

―小林五郎第一詩集

彌永亥一郎

22

―「記号と秩序」杉本駿彦著

彌永亥一郎

22

―九州詩集

彌永亥一郎

22  
23

雑記

天野生

23

★定価の記載はない。

★中扉の画はシャガール。表紙・二二頁・「紫外線」広告頁にカッ  
ト。

★天野隆一「紫外線」、『麵麴の雪』、彌永亥一郎「朱門」、俵青茅

「雪女」、山村順「水兵と娘」、京都詩選「一〇五、公爵と港」、

竹中郁「一匙の雲」、北園克衛「若いコロニー」、春山行夫「シル

ク&ミルク」、近藤東「抒情詩娘」、瀧口修造「TEXTES SUR

REALISTES」、阿比留信訳「クロスビー詩抄」、北村常夫訳「シ

ットウエル詩抄」、伊藤整訳「カミングス詩抄」、喜志邦三「交替

の時」の広告掲載。ボン書店の広告欄に、春山行夫「Les cahiers

vivants」を掲載。

## 第四号 昭和七年十二月一日発行

散文詩 — 窓

— 真なる姿

— 酔へ

— 月の寵愛

青ざめたマノン

白い窓

POST

ヴェニユスの眸

独白

哀歌

絵葉書 — 天野隆一氏に

夜更け

冬

プリズムの世界

掌

森

耀

失題

地下鉄

日記

霖雨

亡命貴族

## CORONA CORONA

紫外線

僕はこんな風にも考へる — 詩集「紫外線」の著者

「紫外線」のぐるりを

「紫外線」について

「紫外線」を読んで

紫外線

六号室の窓辺

花束

北園克衛、村野四郎、安西冬衛、城左門、

百田宗治、土田杏村、田中冬二、谷川徹三、

明石染人、渡邊修三、小島貞一、亀山勝、

高木秀吉、鳥羽馨

笠野半爾のプロファイル

「麵鮑の雪」を読むで

「交替の時」について

「石と接木」など

「生活の一章」について

後記

★領価十五銭。

★表紙・中扉・三二頁・「朱門」の広告欄にカット。

★三九頁に、天野隆一詩集「紫外線」出版記念会の写真一葉。

★「麵鮑の雪」、「紫外線」、「朱門」の広告掲載。

第五号 昭和八年二月五日発行

油井文化

海岸日記

山村順

乾直恵

竹中郁

彌永亥一郎

菱山修三

笠野半爾

俵青茅

天野隆一

藤井芳

彌永亥一郎

藤井芳

彌永亥一郎

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

天野隆一

旗日	狂信的	航海日記	五月十五日	佐近司	7	6
兩日	五月十六日	藤井芳	9	佐近司	7	8
雪	高原にて	藤井芳	10	藤井芳	10	10
青い蝶	高山にて	藤井芳	10	藤井芳	10	10
灰色の層		藤井芳	10	藤井芳	10	10
帯		藤井芳	10	藤井芳	10	10
漫歩		藤井芳	10	藤井芳	10	10
独座		藤井芳	10	藤井芳	10	10
月にある幻		藤井芳	10	藤井芳	10	10
夜虹		藤井芳	10	藤井芳	10	10
夜		藤井芳	10	藤井芳	10	10
をんな		藤井芳	10	藤井芳	10	10
三月		藤井芳	10	藤井芳	10	10
疲労		藤井芳	10	藤井芳	10	10
夢のやうな		藤井芳	10	藤井芳	10	10
退屈	この諸篇を竹中郁兄にさへぐ	藤井芳	10	藤井芳	10	10
睡眠		藤井芳	10	藤井芳	10	10
少年		藤井芳	10	藤井芳	10	10
曇天		藤井芳	10	藤井芳	10	10
ピアノと女		藤井芳	10	藤井芳	10	10
CORONA CORONA		藤井芳	10	藤井芳	10	10
所感		藤井芳	10	藤井芳	10	10
朱門		藤井芳	10	藤井芳	10	10

山村順	36	36	池永治雄	36	37
笠野半爾	34	35	笠野半爾	34	35
笠野半爾	33	34	笠野半爾	33	34
笠野半爾	31	32	笠野半爾	31	32
笠野半爾	30	31	笠野半爾	30	31
笠野半爾	29	30	笠野半爾	29	30
笠野半爾	28	29	笠野半爾	28	29
笠野半爾	27	28	笠野半爾	27	28
笠野半爾	25	26	笠野半爾	25	26
加来武臣	25	26	加来武臣	25	26
加来武臣	24	25	加来武臣	24	25
加来武臣	23	24	加来武臣	23	24
俵青茅	22	23	俵青茅	22	23
俵青茅	21	22	俵青茅	21	22
喜多歎一	20	21	喜多歎一	20	21
喜多歎一	19	20	喜多歎一	19	20
天野隆一	17	18	天野隆一	17	18
天野隆一	16	17	天野隆一	16	17
天野隆一	14	15	天野隆一	14	15
山村順	12	13	山村順	12	13
水町百窓	11	12	水町百窓	11	12
藤井芳	10	11	藤井芳	10	11
藤井芳	9	10	藤井芳	9	10
藤井芳	7	8	藤井芳	7	8
佐近司	6	7	佐近司	6	7

★領価二十銭。  
★表紙に汽船の写真一葉。  
★中扉・四十頁・四六頁。「紫外線」広告欄にカット。カットは伊谷賢蔵、シヤガール、相澤等。  
★水町百窓「生活の一章」、荒木二三「マクベスの釜」「闘牛」、藤井芳「枇杷」、「紫外線」、「麵麴の雪」、「朱門」の広告掲載。

輕い感想 露木陽子 37  
朱門の生理 田中令三 37  
朱門を撫でる 長田恒雄 38  
彌永氏の横顔 杉本駿彦 39  
朱門の花束 堀口大学、左近司、深尾須磨子、春山行夫、安藤一郎、村野四郎、乾直 恵、佐伯郁郎。 40  
抒情詩娘 天野隆一 41  
詩集のある人物画 天野隆一 42  
――「紫外線」天野隆一詩集 相澤等 42  
――「麵麴の雪」笠野半爾詩集 相澤等 42  
――「朱門」彌永亥一郎詩集 相澤等 43  
――「生活の一章」水町百窓詩集 相澤等 43  
笠野半爾君 岡崎清一郎 44  
「紫外線」に就て 藤村青一 44  
後記 天野生 44  
★中扉に同人名記載。天野隆一、相澤等、荒木二三、藤井芳、彌永亥一郎、笠野半爾、加来武臣、喜多歎一、皆川鐵雄、水町百窓、左近司、俵青茅。 46





一夜	天野隆一	30	31
山桜	天野隆一	31	
聖書の夜	加来武臣	32	33
聖夜	加来武臣	33	34
港	水町百窓	36	37
午後三時	水町百窓	37	38
春宮	俵青茅	40	
U氏夫妻の青い日	相澤等	42	43
五月芦ノ湖愛恋調	相澤等	43	44
SONNET	喜志邦三	45	
POESIE 詩集枇杷	竹中郁	46	
『枇杷』瞥見	水町百窓	47	48
『枇杷』読後感	荒木二三	48	49
『枇杷』寸感	山村順	49	
正しい現実の直視(『枇杷』のこと)	山村順	49	
雑感——詩集『夜虹』の著者へ	南江二郎	50	51
夜虹に就いて	天野隆一	50	51
『象牙海岸』断想	藤井芳	51	52
南江二郎著『新詩集』に就て	俵青茅	52	
随感	藤井芳	52	
後記	天野隆一	53	

★五四頁に同人アドレス掲載。  
★領価30SEN。

★中扉の前頁・七頁・二二頁・二五頁・三五頁・三九頁・四一頁・四五頁にカット。ピカソ・コクトオ・伊谷賢蔵・レジエ・デユフイ・ラポルドの画を使用。『夜虹』と『麵麴の雪』の広告欄、奥

付の頁にカット。

★『マクベスの釜』、『枇杷』、『紫外線』、『朱門』、『生活の一章』、『麵麴の雪』、『水の悲哀』、『夜虹』、『南江二郎』、『新詩集』、『竹中郁』、『象牙海岸』、『近藤東』、『抒情詩娘』、『安西冬衛』、『亜細亜の鹹湖』、『渴ける神』、『一家』創刊号・第二号の広告掲載。  
★青樹社装幀部の広告掲載。

第八号 昭和八年五日発行

影	荒木二三	4	7
驟雨	笠野半爾	8	9
花園	喜多敏一	10	13
朝	天野隆一	14	
詩人	天野隆一	15	
海の合唱	加来武臣	16	17
季節外れの海水浴場	山村順	18	19
雪夜道	俵青茅	20	
断章——南江二郎君へ	俵青茅	21	
日に背いて	彌永亥一郎	22	23
雨季	藤井芳	24	25
K氏の死	藤井芳	25	
一生	藤井芳	25	
太陽と花	藤井芳	26	
六月	藤井芳	26	
巴周率の生理	相澤等	27	29
自画像	水町百窓	30	32
家畜の太陽	水町百窓	32	33
『夜虹』のあらまし	乾直恵	34	

「夜虹」の架橋  
詩集『夜虹』を仰ぐ  
笠野半爾著 水の悲哀  
井上多喜二郎 34  
水町百窓 35

著者への書翰  
「水の悲哀」に関する手紙  
稲垣足穂 38  
北園克衛 39  
彌永亥一郎 42

水の悲哀解題（ノート風に）  
CORONA CORONA 荒木二三、俵青茅、藤井芳  
天野隆一 48  
後記 49

★四七頁に同人アドレス掲載。  
★領価20SEN。

★中扇前頁の口絵はシアガル「二重の肖像」。三七頁・三八頁にカット。カットは、コクトオとシアガル。

★「雪女」、「夜虹」、「紫外線」、「朱門」、「マクベスの釜」、「枇杷」、「麵麴の雪」、「水の悲哀」、喜志邦三「雪をふむ足音」、水町百窓「自画像」、「生活の一章」、山中散生訳「ラディゲ遺墨」、北園克衛「天の手袋」、永田逸郎訳「をんな一匹」（カルコ）、「文芸汎論」の広告掲載。

★青樹社装幀部の広告掲載。

第九号 昭和八年十一月一日発行

白夢 水町百窓 4  
北方へノ唄 近藤東 5  
遠足 山村順 6  
秋日 北園克衛 7  
シンガポール 竹中郁 8  
港の四辻 春山行夫 9  
春の修辭 村野四郎 10  
13

無口な時間  
パイプのけむり  
夕暮  
転居  
NAPOLI  
昼過  
街頭  
生存  
堅壘  
森  
愛する人  
嬉戯  
女ごころ  
落葉  
夜の受精  
曲馬団から  
怪談  
まひる  
昼と終  
鬱憂  
物語  
古稀  
すもも  
蓮

福原清 14  
福原清 15  
天野隆一 16  
瀧口武士 17  
杉本駿彦 18  
笠野半爾 20  
喜志邦三 22  
佐近司 23  
佐近司 24  
佐近司 25  
阪本越郎 26  
俵青茅 27  
俵青茅 28  
喜多欽一 29  
吉川則比古 30  
藤井芳 31  
藤井芳 32  
藤井芳 33  
岡崎清一郎 34  
岩佐東一郎 35  
彌永亥一郎 36  
田中冬二 37  
加来武臣 38  
相澤等 39  
相澤等 40  
相澤等 41  
荒木二三 42

— 服舘麟  
— 牡獅子  
— 象  
— 豹

48  
49

47  
46  
45  
44  
43  
42  
41  
40  
39  
38  
37  
36  
35  
35  
34  
34  
33  
32  
31  
29  
28  
27  
26  
25  
24

48  
49

47  
46  
45  
44  
43  
42  
41  
40  
39  
38  
37  
36  
35  
35  
34  
34  
33  
32  
31  
29  
28  
27  
26  
25  
24

自画像(水町百窓著)	荒木二三、俵青茅、相澤等	50	51
詩集夜虹(俵青茅著)	山田牙城	51	52
水の悲哀(笠野半爾著)	水町百窓	52	53
園(瀧口武士著)	藤井芳	53	
渴ける神(安西冬衛著)	藤井芳	53	54
竹中久七・余技・	水町百窓	54	
佐藤惣之助・花心・	水町百窓	54	55
藤田三郎の観念映画	水町百窓	55	
夜へ続く挿話(高木真吉著)	佐近司	55	
雑記	天野隆一	56	

★「文芸汎論」の広告欄にカット。  
★領価参拾銭。

★「紫外線」、相澤等第一詩集(近刊)、『朱門』、『マクベスの釜』、  
荒木二三第二詩集(近刊)、『枇杷』、『麵麴の雪』、『水の悲哀』、  
加来武臣第一詩集(近刊)、『夜虹』、『生活の一章』、『室生屋  
『鉄集』、秦一郎訳『純粹詩論』(ヴァレレイ)、青柳瑞穂訳『マル  
ドロオルの歌』(ロオトレアモン)、伊藤整『イカロス失墜』、『室  
生屋屋』、『十九春詩集』、左川ちか訳『室楽』(ジョイス)、菱山修  
三訳『海辺の墓』(ヴァレレイ)、安西冬衛『渴ける神』、『詩抄』  
一・二(椎の木社)、井伏鱒二『隨筆』、瀧口武士『園』、小林定  
吉『春宮美学』、『西脇順三郎詩集』、『ヴィヨソ詩抄』北村千秋訳  
『一片詩集』(ジョイス)、『スタイン詩抄』、山本信雄『木苺』、岩  
本修蔵『春の秘密』、北園克衛『円錐詩集』、『文藝汎論』十月号、  
『椎の木』九月号、『生理』第二冊、『尺牘』第六冊の広告掲載。  
『青の秘密』広告文は近藤東、『円錐詩集』の広告文は北園克衛。

第十号 昭和八年十二月一日発行

詩	山村順	4	5
海へ	加来武臣	6	7
湖畔に立ちて	坂野草史	8	9
液体の街	相澤等	10	12
歌麿	藤井芳	13	
秋屋	藤井芳	14	
季節	藤井芳	14	
蛾	藤井芳	14	
危機	喜多敏一	16	17
月の外套	彌永亥一郎	18	19
秋	荒木二三	20	21
秋雨——Mに贈る	佐近司	22	
休日	佐近司	23	
若き日	笠野半爾	24	27
挽歌	俵青茅	28	29
Volga	杉本駿彦	30	31
Esthonia	杉本駿彦	31	32
Iceland	杉本駿彦	32	32
白い雲と吸入器	水町百窓	34	
午の街角で	水町百窓	35	
『水の悲哀』への苦言	水町百窓	36	37
かはたれの街	村野四郎	37	38
木苺と山本氏	坂野草史	37	38
能登秀夫第二詩集『都会の眼』	天野隆一	38	
池永治雄著『帰去来』について	水町百窓	39	39
『雪を踏む覚悟』の感想	水町百窓	39	40
	彌永亥一郎	40	

詩集「体温」に就いて  
雑記

喜多敏一  
天野隆一

輪  
買  
陽たまり  
藤井芳  
藤井芳  
藤井芳  
藤井芳  
藤井芳  
藤井芳

★領価貳拾銭。

★「麵麴の雪」、「水の悲哀」、相澤等「稿馬」、荒木三三「凡下の歌」、  
坂野草史「ブルシヤ頌」、杉本駿彦「EUROPE」、加来武臣「海  
の合唱」、彌永亥一郎「天色の紐」、岩佐東一郎「神話」の広告掲  
載。「神話」の広告文は城左門。

「青樹」(第二次) 総目次

第一号 昭和九年四月一日発行

かげらふ	飯田實記男	5	14
黒蝶	佐近司	16	17
春の約束	水町百窓	18	19
移動風景	水町百窓	19	20
茶事	北園克衛	21	
69	俵青茅	22	
女ごころ	俵青茅	23	
探宮	俵青茅	24	
秘戯	俵青茅	25	
詩 No.2	山村順	26	
詩 No.3	山村順	27	
感傷	城左門	28	29
筆枝	天野隆一	30	
水河	天野隆一	31	
虹	荒木三三	32	33

大鴉	藤井芳	36	37
教会	藤井芳	36	37
樹帯——富士山麓西北方の密林地	藤井芳	37	37
記録	坂野草史	38	42
冬へ	加来武臣	43	44
雪の音楽	加来武臣	44	45
雲の生殖	相澤等	46	49
Schweiz	杉本駿彦	50	52
Ural	杉本駿彦	50	52
醜人	岡崎清一郎	52	54
雨	喜多敏一	55	57
睡眠	喜多敏一	58	60
天色の紐抄——村	彌永亥一郎	60	61
——月	彌永亥一郎	62	63
——刺繡	彌永亥一郎	62	63
——夕ぐれ	彌永亥一郎	63	63
——挽歌	彌永亥一郎	63	64
ハリ・クロズビイ詩抄	彌永亥一郎	64	65
——黄金の匙	喜志邦三訳	64	65
——猫	喜志邦三訳	65	66
——ヴァレンタイン祭の夜	喜志邦三訳	66	67
——紅い洋傘	喜志邦三訳	67	67
フォンタナの浜で(ジョイス)	荒木三三訳	68	70
窓の朝(エリオット)	荒木三三訳	69	71

佐藤一英氏の宗教性に就て 特に「大和し美はし」を中心として

言葉と戯子

坂野草史 72 ~ 75  
竹内勝太郎 76 ~ 80

神話雑記

天野隆一 81

高祖保氏「希臘十字」考

杉本駿彦 82

詩集「肋」の著者久滋徹三のこと

藤井芳 83 ~ 85

青樹拾年

天野隆一 86 ~ 88

後記

天野隆一 89

★八九頁に同人名記載。天野隆一、相澤等、荒木二三、坂野草史、

藤井芳、飯田實記男、彌永亥一郎、喜多敏一、笠野半爾、加来武

臣、水町百窓、杉本駿彦、佐近司、俵青茅。

★編輯兼発行人は天野隆一。

★発行所は青樹社。京都市東山区八坂通大和大路東入。

★頒価五拾銭。

★八八頁に青樹社発行詩集を記載。

★中扉の前頁・中扉・四頁・十五頁・七六頁・八三頁・八五頁・八

六頁・八九〜九一頁・「AMBARVALIA」の広告欄・裏表紙に

カット。二〜三頁、十六〜十七頁の upper 段にカット。

★笠野半爾「ひらぎそよひ」、相澤等「雲の生殖」、「神話」、西脇

順三郎「AMBARVALIA」、城左門・矢野目源一共訳「フランソ

ワ・ヴィヨン詩抄」、「椎の木」三月号、「苑」第一冊、「MADA

ME BLANCHE」13号の広告掲載。

第二号 昭和九年六月五日発行

コクトオの背景

春山行夫 5 ~ 10

日本のクワトレイン

喜志邦三 11 ~ 13

薫風

俵青茅 14 ~ 15

発情

秘語

水のやうに

テーブルの上に挿した花

冬日抄

蝶

競技 — Hammer

— pole jump

都市膨張

文明

影

距離

りんちようのにはふ

大氣の精

神の手

一日

解氷期 — 航海日記 四月八日

高麗雉子

街

朝

朝市

梅恨

季節のイニシャル

海月と美神

杖立温泉

母上

紐

俵青茅 16  
俵青茅 17  
水町百窓 18  
水町百窓 19  
水町百窓 20

荒木二三 22 ~ 23

村野四郎 24

村野四郎 25

山村順 26 ~ 27

坂野草史 28 ~ 30

天野隆一 31

佐近司 32 ~ 33

喜多敏一 34 ~ 36

深尾須磨子 37

彌永亥一郎 38 ~ 40

彌永亥一郎 41 ~ 42

藤井義晴 43

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

藤井義晴 44

22 ~ 23

24

25

26 ~ 27

28 ~ 30

31

32 ~ 33

34 ~ 36

37

38 ~ 40

41 ~ 42

43

44

44

44

44

44

44

44

44

44

44

44

44

44

44

44

山荘なる水盤室	杉本駿彦	54
登攀	飯田實記男	55
エリュアアル抄	56	65
— 裸かの真実	山中散生訳	66
— わが愛の核心に	山中散生訳	66
ケストナア抄	66	68
— 最後の章	板倉駒音訳	69
— 卑劣の発生	板倉駒音訳	70
典雅なる孤独 — 『終冬青』の著者笠野半爾氏へ	70	71
後記	坂野草史	72
— 終冬青 について	水町百窓	74
	天野隆一	75
	77	77

★七六頁に「麵麴執筆者全十冊」と「青樹」第一冊目次を掲載。  
 ★中扉前頁の画は藤井義晴。四頁・二二頁・六八頁・七三頁・七四頁・七七頁・裏表紙にカット。二一・三頁の二段にカット。「Euro pe」と「ひひらぎそよこ」の広告欄にカット。カットは天野大虹と伊谷賢蔵。

★「雲の生殖」、「Europe」、荒木二三「蝶」、笠野半爾「ひひらぎそよこ」、「麵麴の雪」、「水の悲哀」、坂野草史「ブルシヤ頌」、水町百窓第二詩集（近刊）、藤井義晴第二詩集（近刊）、左近司第一詩集（近刊）、天野隆一詩・亀井藤兵衛版画・詩集（予定）、「夜虹」、「紫外線」、「枇杷」、「マクベスの釜」、「朱門」、「生活の一章」、「自画像」、「文章法」第三冊の広告掲載。寺崎浩と坂口安吾の「終冬青」評を、「ひひらぎそよこ」の広告欄に掲載。

第三号 昭和九年九月十五日発行  
 自意識と美意識の相剋性 — 観念と理念の問題として

虚勢	坂野草史	5
詩一篇（エリュアアル）	飯田實記男	9
盛夏	山内義雄訳	10
幻の丘	山内義雄訳	19
地下鉄	喜多敏一	20
春くるる	喜多敏一	21
創痕	喜多敏一	23
声	喜多敏一	24
首夏即景	山村順	26
松籟	山村順	27
ビルディング	山村順	28
記録	佐近司	29
秋に向ふ	福原清	30
青い空	福原清	31
水のひびき	福原清	32
ヴァリエテ	福原清	33
	天野隆一	34
	天野隆一	35
	近藤東	36
	水町百窓	37
	水町百窓	38
	水町百窓	39
	水町百窓	40
	津村信夫	41
「終冬青」読後	津村信夫	41
私の故郷	彌永亥一郎	41
美しいかな「終冬青」	折戸彫夫	43
小さなアンプレッション	折戸彫夫	43
— 内田忠「左右」	山本信雄	45
— 山村西之助「晚餐」	山本信雄	45
EUROPE 後書	坂野草史	46
青い洋燈	田尻宗夫	47
痣	早坂逸兵衛	47
夏の講習会	岩本修蔵	49

帯	荒木二三		50
壁	荒木二三		51
喪失	荒木二三		52
除幕式(サスン)	荒木二三訳	53	54
松林にて	相澤等	55	56
白い煤	相澤等	56	57
その夜の表情	相澤等	56	57
海の記憶	加来武臣	58	59
航海日記抄	藤井義晴	60	61
	水州	60	61
	LONDON		
	HULL		
若冠	藤井義晴	61	61
少年	彌永久一郎	62	63
月光	彌永久一郎	63	64
古歌	彌永久一郎	64	65
嬰兒抱ける母	坂野草史	66	67
海の彩花	杉本駿彦	68	69
失意	俵青茅	70	71
小品	俵青茅	70	71
オルタンシヤの庭	竹中郁	72	71
	山本信雄		73
—あぢさる	山本信雄	73	74
—香合	山本信雄	73	74
顔	藤井義晴	74	75
後記	天野隆一	76	76

★表紙の画は河合健二。口絵は向井順吉。裏表紙の画は福田豊四郎「きつつき山」。二二頁・四一頁・四八頁・七二頁・七六頁にカッ

ト。目次頁の上段にカット。「神話」「現実詩派」の広告頁にカッ  
ト。カットは天野大虹。



★七六頁に「青樹」二号の目次掲載。  
★「ひひらぎそよご」、「麵麴の雪」、「水の悲哀」、岡崎清一郎「火宅」、「神様と鉄砲」、衣巻省三「足風琴」、小村定吉「魔法」、山中

散生訳「放縦」(アラゴン)、「神話」、「EUROPEY」雲の生殖「蝶」、「プルシヤ頌」、水町百窓「水のやうに」、「紫外線」、「夜虹」、「朱門」、「枇杷」、喜志邦三「現実詩派」「零時零秒」、「詩法」  
「エスプリ・ヌウボオ」創刊号の広告掲載。「火宅」の広告文は萩原朔太郎。

第四号 昭和十年二月一日発行

ないしよごと	飯田實記男	3	11
植物採集	相澤等	12	
曇り	相澤等	13	
黒い蝶	山村順	14	
相澤等詩集 雲の生殖 批評			



渺茫たる匂ひ興す人 — 雲の生殖に就いて	杉本駿彦	15	38
雲の生殖を読んで	乾直恵	19	39
『雲の生殖』を読む	山村西之助	20	
所感	山村順	21	
著者を語る — 昭和九年十一月廿三日午後六時横浜市波止場入 口エキスプレス食堂に於て『雲の生殖』出版記念会席上にて	岩佐東一郎	22	
随想	坂野草史	24	
アツサンの蝶	坂野草史	24	
随想	喜多敏一	25	
思ひ出すまゝ	喜多敏一	25	
岸辺	加来武臣	27	
秋の夜におくる	加来武臣	28	
旅譜	加来武臣	28	
一つの世界	加来武臣	29	
新居	藤井秀雄	30	
海	藤井秀雄	31	
朝	藤井秀雄	31	
ギリシヤ拾遺	坂野草史	31	
春の散歩 — 銀行	坂野草史	32	
靴屋	坂野草史	33	
帽子屋	坂野草史	34	
時計屋	坂野草史	34	
ペアレズベツト	坂野草史	35	
煙草屋	坂野草史	35	
バラソル	坂野草史	35	
思ひ出	喜多敏一	36	
	喜多敏一	37	

  

転調	佐近司	38
後記	天野隆一	39
★三九頁に同名記載。相澤等、坂野草史、藤井秀雄、飯田實記、喜多敏一、加来武臣、笠野半爾、天野隆一。		
★領価四十銭。		
★口絵は黒田重太郎。十五頁・二四頁・三九頁・裏表紙にカット。十二〜十四頁・二七〜三五頁・三八頁の上段にカット。『神話』の広告欄にカット。カットは天野大虹。		
★二六頁に相澤等詩集出版記念会の写真一葉。		
★『蝶』、喜志邦三『零時零秒』、『墮天馬』、『交替の時』、『神話』、『雲の生殖』、『プルシヤ頌』、藤井秀雄『出発』の広告掲載。		
第五号 昭和十年七月一日発行		
描1	天野隆一	2
描2	天野隆一	3
蝶	加来武臣	4
譬喩	坂野草史	6
英雄	山村順	7
岩石	相澤等	8
ESQUISSE — 助木と雲	藤井義晴	9
街	藤井義晴	11
校長	藤井義晴	12
校長	藤井義晴	12
夢	藤井義晴	13
鉄瓶	藤井義晴	13
唄ふトンネル	藤井義晴	13
A 歌手のゐた中学校	相澤等	14
B 走る歌手	相澤等	15

— Cニコチンの愛情	相澤等	15
— Dトンネルの歌手	相澤等	15
現実否定の精神的高揚 — 喜志邦三氏詩集〔零時零秒〕読後	坂野草史	16
坂野草史詩集 プルシヤ頌 批評	折戸彫夫	18
プルシヤ頌の芸術味	杉本駿彦	20
鱗粉転写術	高祖保	21
プルシヤ頌の姿態	中井登良雄	22
東洋に騎さす人	飯田實記男	23
落書		24
★三三三頁に、タイトルはないが、天野隆一の後記を掲載。		32
★三三三頁に青樹社発行詩集目録を掲載。		
★領価参拾銭。		
★目次頁・十四頁・十八頁・三三三頁にカット。「プルシヤ頌」・「文芸汎論」の広告欄にカット。		
★「プルシヤ頌」と「文芸汎論」の広告掲載。「プルシヤ頌」の広告文は杉本駿彦。		
第六号 昭和十年十一月一日発行		
不死鳥の死 II その遺著に就て II	明石染人	1
葦の宿	加来武臣	2
都市	山村順	3
祖母	藤井義晴	4
博士	藤井義晴	5
繪具	福田豊四郎	5
手紙	相澤等	6
犬	龜井藤兵衛	7
		9
		10

街の記	坂野草史	10
火遊び	飯田實記男	11
★十八頁に、タイトルはないが、天野隆一の後記を掲載。		18
★表紙・十一頁・十八頁にカット。三三三頁・七九頁の上段にカット。「文芸汎論」の広告欄にカット。		
★二頁に人形の写真一葉。		
★「文芸汎論」五一号の広告掲載。		
第七号 昭和十一年五月一日発行		
春の寺 — 春日運々	田中冬二	1
— 春の寺	田中冬二	1
— 夕暮	田中冬二	1
— 谷間	田中冬二	1
感傷の果て	加来武臣	2
怨恨の時	加来武臣	2
アノ娘	山村順	3
緑金哀歌	岡崎清一郎	3
春昼	岡崎清一郎	3
墓	池永治雄	4
石信	天野隆一	5
丹那トンネル	藤井義晴	5
窓から	藤井義晴	6
港	藤井義晴	6
河	藤井義晴	6
何も無い部屋	能登秀夫	7
凝望	長谷敏男	8
猫	長谷敏男	8
	長谷敏男	8

エトランゼエの嘘	笠野半爾	9	「村村」より	自待	内田忠	17
造園	相澤等	10	― 事変	内田忠	17	16
晴天	相澤等	10	世田ヶ谷小誌	山村西之助	18	20
エリユアアル抄	山中散生訳	11	京都詩壇小史・大正篇	(無署名)	21	
― 鳥	山中散生訳	11	★青樹社発行詩集目録と再刊青樹執筆者1-8を、二二頁に記載。			
― 舞踏法	山中散生訳	11	★領価二〇セン。			
花々 詩集評	加来武臣	12	★目次頁にカット。『海の合唱』の広告欄にカット。			
― 山村西之助氏詩集「美し家族」	加来武臣	12	★『海の合唱』の広告掲載。			
― 番野聖三氏詩集「仮睡」	加来武臣	12				
緋	飯田實記男	13				
後記	飯田實記男	13				
	天野隆一	21				
★表紙・十三頁にカット。『海の合唱』、ボン書店の広告欄にカット。						
★加来武臣『海の合唱』、『L'ECHANGE SURREALISTE』、喜志						
邦三『新詩の門』、『ハンガリー民謡集』(訳)の広告掲載。						
第八号 昭和十一年九月一日発行						
熱き魚	山村順	3	第九号 昭和十一年十二月五日発行			
壁画	岩本修蔵	4	蘇洲城外	天野大虹	2	
桔梗と嫁菜	喜志邦三	5	宋道湖の鴨	福原清	3	
青春記	饒正太郎	7	日暮小景	福原清	4	
上海	天野隆一	8	うららかな日に	福原清	5	6
涼しく曇る	長谷敏男	10	おれも行く	福原清	7	
一望の冬	長谷敏男	11	白夜秘義	岡崎清一郎	8	
讃歌	長谷敏男	11	白光	長谷敏男	9	
夜の影	加来武臣	12	雪信	長谷敏男	10	
カメラの妙技	加来武臣	13	耽恋	長谷敏男	11	
― Aピント	加来武臣	13	塔	長谷敏男	12	
― Bシャッター	加来武臣	13	留園	天野隆一	13	
	加来武臣	13	微風	相澤等	14	
	加来武臣	13	港にて	相澤等	15	
	加来武臣	13	「ガカ」より	相澤等	16	
	加来武臣	13	すでに朝は	川田総七	17	
	加来武臣	13	北湖	内田忠	18	
	加来武臣	13		荒木利夫	19	

京都詩史 昭和篇  
雑誌(昭和篇)  
(無署名) 20 20

CORONA CORONA

鯨見物

山村順

21

秋の日

長谷敏男

21  
22

後記

天野隆一

22

★二頁の「蘇洲城外」は、文部省美術展覧会出品作。裏表紙は藤井義晴の画(昭和十一年二科展出品作)。

第十号 昭和十二年六月一日発行

種子

相澤等

1

四月

相澤等

1

苑

相澤等

1

春の雨傘が四本

平野威馬雄

2

江南の夢

天野隆一

3

夜の弥撒うた

安藤真澄

3

独楽

依田義賢

4

孤独

依田義賢

4

「日日より」 一唱

長谷敏男

5

「日日より」 二唱

長谷敏男

5

瀉

長谷敏男

6

亜熱帯

荒木利夫

6

桃山のけむり

濱名與志春

7  
8

★十頁に青樹執筆者(再刊1-10)記載。

★領価一五セン。

★表紙・「風騒集」の広告頁に写真一葉。

★七頁・「ボヘミア歌」の広告頁にカット。

★岡崎清一郎「風騒集」、岩佐東一郎「茶煙閑語」、濱名與志春「ボヘミア歌」の広告掲載。

A general table of contents and the explanatory  
notes of *Pan* and the second *Seiju*

Hirofumi WADA

Summary

This is a sequel of the article titled "A general table of contents of the first *Seiju* and the reprint of letters from Iku Takenaka" in *Memoirs of Nara University* No.21. It consists of a general table of contents of *Pan* and the second *Seiju* which appeared after the first *Seiju*. 10 volumes of *Pan* were issued from June 1932 to December 1933, and then 10 volumes of the second *Seiju* from April 1934 to June 1937. See the explanatory notes for further details.

